多くシンエダウチホングウシダ L. commixta Tagawa や, L. Chienii Ching var. deltoideae Tagawa と共に小群落を作つている。従来の確実な北限地は沖永良部島。

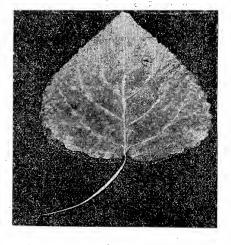
(7) Lindsaya spp. (Fig. 7) シンエダウチホングウシダの近縁種。 矢張中橋附近の原生林であるが,通常の Lindsaya と異り谷より大部離た乾地に生育し可成の 群落を作つていた。裂片が小さく連合嚢堆は殆ど連続するか,又は少し切れる。葉柄は四稜形なるも生時緑色,根茎は長く這い。やや疎に葉を付けるので他のエダウチの仲間とは明瞭に異る種類と思われる。目下文献未記録のものと考えられる。

(静岡市小鹿, 静岡薬科大学, Shizuoka College of Pharmacy, Oshika Shizuoka)

O カロリナポプラ (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI: Calorina [popular as arbored walk trees of Tokyo.

今まで、いろいろな人から、カロリナ・ポプラのことをきいていたが、朝日新聞社が 発行した、並木道という道路樹のことをかいた本に「都公園緑地部では……風に強いカ

ロリナ・ポプラを大阪から取寄せ、目下北多摩郡の「神代苗圃」で育成につとめている。カロリナ・ポプラはバイ煙にも強く、東京の並木のニュー・フェースとして、その登場が期待されている云々」とかいてあつた。この木は通説では北米東部の Populus angulata Aitom=Calorina papular として知られている。葉の巾の広い種類で、葉柄の頂部は普通のものより一層上下の方向に平たいので、風で葉がゆれる程度も著しいだろう。もつともこの性質はこの仲間によくある性質なので、いつも風で葉がゆれる。それで日本在来のハコヤナギにツラフリヤナギ



の俗称もあることは中陸漫録十四巻にも出ているし、また中国の古詩にも、微風来則葉皆動とあると記している。そんなごとから将来都内のこのポプラがいたるところでツラ(面)をふるさまを思いうかべると、ほほえましくなる。ポプラの葉のゆれることについて洋書にも quiver in the wind とか tremble in the breeze とか表現され、東西とも同じような見方をするようである。